

中国の考古学研究チームが調査

## 長大なトンネルに解剖室…旧日本軍「731部隊」最大規模の“地下実験場”内部が明らかに



旧日本軍の731部隊は兵士の感染症予防などを研究するという名目で、ひそかに生物兵器の開発を進めていた。Photo by Pictures From History/Universal Images Group via Getty Images

画像ギャラリー

### サウス・チャイナモーニング・ポスト（中国）

旧満州のハルビン近郊に拠点を構えていた関東軍防疫給水本部、通称「731部隊」は、人体実験の結果をもとに生物兵器の開発をしていたことで知られる。最近、中国の考古学研究チームが、黒竜江省に残された同部隊の地下研究施設について報告書を発表。その非人道的な実験の一端を明らかにしている。

中国の黒竜江省文化財・考古学研究所のチームは、第2次世界大戦中、旧日本軍の「関東軍防疫給水部本部」、通称「731部隊」が生物兵器の開発のために恐ろしい人体実験を行っていた地下研究施設を発見した。施設が見つかったのは、黒竜江省安達市の近郊だ。

### 長大なトンネルと複数の小部屋

2023年5月、中国の考古学誌「ノーザン・カルチュラル・レリックス」に、この地下研究施設の調査報告書が掲載された。同報告書は、この施設の発見によって、戦争犯罪の新たな証拠が見つかる可能性があるとして述べている。

「報告書には、今も残る731部隊の残虐行為の生々しい傷跡と、この施設の存在が生物兵器の使用を抑止しようとする世界的な取り組みにいかに関与するかについても書かれています」と研究チームは言う。

研究チームは、2019年に地下研究施設の調査を開始した。地面で発生した物理現象などを測定する物理探査や掘削、発掘など様々な調査手法を取り入れた結果、長大なトンネルと複数の小部屋が繋がる地下施設があることが分かった。建物の埋蔵深度を分析することでその構造を調べたところ、それぞれが複雑な用途を持っていたと考えられるという。

当時の記録によれば、安達の施設は731部隊の実験場としては最大級で、設備も整っており、頻繁に使用された。部隊の主な任務は、収容所でまだ生きている人間に対して実験をすることだった。

研究施設は、有刺鉄線に囲まれ、厳重に警備されていた。地上には、滑走路や倉庫、兵舎、井戸、爆撃目標として使われた三角形の金属フレームなどが造られていた。

機密保持と空襲対策のため、収容室だけではなく実験室、観察室、解剖室も地下に造られた。こうした施設は感染物質を外に拡散させないように設計されていたという。